

「グリーン・ウォール」の創生
グヌングデ・パングランゴ国立公園
住民参加型森林再生プロジェクト

現地からのお便り（2010年10月－12月）

2011年1月31日
コンサベーション・インターナショナル

現地からのおたより

森林再生事業の進捗

地元農家グループと国立公園レンジャーと一緒に、農家グループが選んだ木の苗を50ヘクタールの土地に植えました。これで、200ヘクタールへの苗の植え付けが終わりました。植えた苗がきちんと育つよう、定期的に見回り、手入れを続けています。10月、新しく就任した国立公園長がダイキンの森を訪れました。プロジェクトの成果を高く評価し、他の地域での再植林プロジェクトを成功させるためにこのプロジェクトから学びたいと語ってくれました。



(c) Conservation International, Photo by Anton Ario



(c) Conservation International, Photo by Anton Ario

プロジェクトでは、コミュニティの生活を改善するため、ヤギをプレゼントしています。これまでに、13匹のヤギが、3つの農民グループに届けられました。プレゼントされたヤギから仔ヤギが生まれたという、うれしいニュースも届いています。



(c) Conservation International, Photo by Anton Ario



(c) Conservation International, Photo by Anton Ario

多様性調査

グヌングデ・パングランゴ国立公園の森にすむ野生動物の調査を続けています。3年目は、特に、ジャワヒョウに調査の重点をおいています。ジャワヒョウは、ジャワ島にだけ生息する、インドネシアでもっとも絶滅の危機に瀕した哺乳類の1種です。グヌングデ・パングランゴ国立公園の森は、ジャワヒョウに残された貴重な生息地なのです。10月から12月の間、国立公園スタッフを対象に、ジャワヒョウのモニタリングをするためのトレーニングを行いました。



(c) Conservation International, Photo by Anton Ario

お祭り

私たちのプロジェクトは、グヌングデ山ふもとのナグラック村の皆さんと一緒に進めています。このナグラック村でお祭りがありました。バンドによる演奏、スピーチコンテスト、ファッションショーなど出し物も盛りだくさん。村が一年で一番賑やかになる日です。良いお米が沢山とれるよう願いが込められた象徴をのせた山車を引いて、皆で村を練り歩きます。水田を満たすグヌングデ山からの水が涸れることのないよう、森を回復し、そして守る取り組みを続けています。



(c) Conservation International, Photo by Anton Ario



(c) Conservation International, Photo by Anton Ario

※画像および文章の無断転用はご遠慮下さい。